

貴計画に対する質問事項について

H29.5.27に配布された説明会資料の中のそれまでに開催された説明会Q&Aに'4/7赤沢別荘地区'とありますが大変迷惑です あの会は説明会の体をなしておりません また4/2赤沢コミセンで開催された説明会?には出席を拒絶されました 従って事業者の赤沢別荘地住民に対する説明会は今まで一回も開催されていなかったの、4/7の説明会が赤沢別荘地住民を対象に開催されたような表現は間違いです

H29.3資源エネルギー庁編「事業計画策定ガイドライン(太陽光発電)」

第2章 適切な事業実施のために必要な措置

第1節 企画立案 2項 地域との関係構築

- ①事業計画作成の初期段階から地域住民と適切なコミュニケーションを図るとともに、地域住民に十分配慮して事業を実施するよう努めること
- ②地域住民とのコミュニケーションを図るに当たり、配慮すべき住民の範囲や、説明会の開催や戸別訪問など具体的なコミュニケーションの方法について、自治体と相談するように努めること 環境アセスメント手続の必要がない規模の発電設備の設置計画についても自治体と相談の上、事業の概要や環境・景観への影響等について、地域住民への説明会を開催するなど、事業について理解が得られるよう努めること

とあり、これまで事業者は当地区に対して何ら対応していなかったと言っても過言ではなく、【白紙撤回】をお願いしたいと心から思っている次第である

ただ初めての事業者説明会に両者が会したのであるから

事業者の説明を聞かせて頂くと同時に我々の質問や危惧について下記に取りまとめたので、我々の思いに配慮し、親切丁寧且つ具体的に書面で回答するようお願いする 内容確認の上、回答期限を予め連絡のこと
(即;即答、書:書面提出、検;定期的検査等を意味する)

A 基本事項

1 敷地面積等は水平投影面積ですね

即

2 敷地面積の内側30mの残置森林も水平投影距離ですね

即

3 伊豆メガソーラーパーク合同会社への親会社2社の出資比率

即

4 計画の基本方針は自然環境を十分に生かし自然との調和がとれた
書 設計とする 特に自然の地形を変えることにより発生が懸念される
災害については未然に防ぐことを責務とし、防災、排水、緑化及び自然
環境保全等に留意した計画とするとあるが
発生が懸念される災害とは具体的に何か
留意した計画とは具体的に何か

B 土砂災害

1 調整池、沈砂地、調整地のろ過装置、余水吐について
書 機能と操作、制御方法

設計基準の降雨量(mm/hr)及び総雨量(mm/day)

池及びろ過装置の構造

調整地とろ過装置及び沈砂池を通過する降雨面積の範囲

浚渫頻度と一回当たりの浚渫数量及びその処置

2 昨今の大雨特別警報発生状況から見て、採用している設計基準では
書 全く不十分であるので見直しが必要である

なぜなら、設計基準を超える大雨による被害が発生しないようにする
のが最重要課題であり事業者の責任である

3 近隣での発生実績として

書 S51.7 東伊豆町で13万 m^3 の深層崩壊

H3.9 下田市で12万 m^3 の深層崩壊

H25.9 伊豆大島で台風26号により表層崩壊 雨量は122mm/hr 824mm/d
これらの崩壊対策として残置森林面積を5%増やしたり調整池の設置で防げる
とは思えないと考える 防げるとする論拠は何か

4 調整池の近傍で表層崩壊あるいは深層崩壊が発生した場合には
書 調整池が崩れて大洪水になるのではないかならない論拠

5 八幡野川の許容流量はどれだけか それを超えないようにどのように
書 して調整池からの放水量を制御するのか

6 沈砂池で処理された後、八幡野川に流れる水は清水か
書 ゲリラ豪雨の時も清水であると保証できるか

7 樹木伐採に伴う保水力低下の定量的説明及び保水力低下に伴う土砂災害の
書 定量的説明

8 土砂災害に伴う敷地境界線近傍の土地家屋及び周辺道路、特に国道から
書 名鉄赤沢別荘地へのアクセス道路への影響の程度についての説明

9 納得できる説明が得られない場合には、定点観測や目撃情報を収集する必要
検 がある

C 飲料水の水源及び温泉の源泉

1 今上天皇陛下が隣接する池地区ご訪問のおり、お褒めに預かった
書 飲料水は、住民の評判も大変良く素晴らしい財産である
温泉も然り、温泉が無ければ住んでいる意味がないという住民もいる程である
広大な樹林の伐採がもたらす水源及び源泉の地下水脈への影響を
心配している その心配はないという論拠を次の2ケースで示してほしい
・樹林の保水力が減少し現行より浸透過大となる場合
・調整池等により降雨を集めて排水するため、現行より浸透過小と
なる場合

2 浸透水量は現行比どの位と考えているか

書

3 除草剤は使用しないと謳ってあるのは、除草剤による地下水脈への
書 影響があると考えている証拠である もし除草剤を使用したらいつ頃
からどの程度の影響が出てくるか推計したか

4 造成した法面には種子吹付を行うとあります

書

種子吹付には一般的に肥料も一緒に使用する筈ですが、使用する
肥料の名称と成分、数量及び敷地外への流出量

5 除草剤に代わる除草はいかなる方法か

書

6 除草頻度と除草人役はどの程度事業計画に織り込んでいるか

書

7 合理的な頻度で水道及び温泉の定期的水質検査要

検

D 獣害

1 広大な樹林の伐採は現にそこに棲んでいる鳥獣、昆虫等を別の場所へ
書 移動させることになる その一部は名鉄赤沢別荘地内へ移動し、
農作物、樹木、草花の被害が増大する これらの被害を定量的に説明
できますか

2 できない場合には定点観測や目撃情報等のデータを収集する必要

検 がある

E 環境

1 自然環境保全について実施した実生調査とその結果

書

2 ソーラーパネルがどのように見えるかについて

書 主要なビューポイントから見たソーラーパネルの完成予想図を提出のこと

3 ソーラーパネル、電柱、フェンス等の設計耐震強度及び耐風力強度

書

4 環境アセスを実施して住民を安心させることぐらい積極的にやって欲しいと

即 考えるが如何か

5 電力会社と接続する高圧電線の設置ルート

書

6 ソーラーパネル、高圧電線等から発生する電磁波の最大強度と名鉄

書 赤沢別荘地敷地境界線での強度

7 検証のため合理的な頻度及び点数で電磁波の定期的測定要

検

8 年間最高気温の時にソーラーパネルによる気温上昇の程度を表す等気温線

書 如き図面を提出のこと

9 検証のため合理的な頻度及び点数で気温の定期的測定要

検

10 ソーラーパネルで反射する太陽光が届く範囲を示す図面を提出のこと

書 特に名鉄赤沢別荘地の家屋がその範囲にないことを確認のこと

11 広大な樹林を伐採することにより、風速 and/or 風向がどの程度変わるかの

書 説明

12 検証のための定期的な風速 and/or 風向測定

検

F その他

1 会社倒産時の未払金(税金、給与、借入金)の返済はソーラーパネルの

即 撤去費より優先度が高いと思われるが、その対策はどのように考えているのか

- 2 雇用に貢献とあるが、その職種と人数は？
即
- 3 住民に必要な情報の開示方法について、閲覧を準備しているとある
即 が、どこで閲覧できるのか なぜ便利なウェブ上のアップを拒むのか
- 4 風評被害による名鉄赤沢地区の固定資産価格の低下の推定
書
- 5 推定困難な場合には、基準とすべき合理的な不動産の設定と追跡調査を
検 実施すること

貴メガソーラー計画の実施により、名鉄赤沢別荘地住民が被害を被った場合には、名鉄赤沢別荘地住民はその補償を求めることが出来る権利があることを承認すること

以上

事業者説明会 議事録

日時 2017.7.15 17:00～18:45
場所 八幡野コミセン 大会議室
参加者 事業者 ハンファエナジーJP 朴聖龍 代表取締役以下3名
シリコンバンク 所司 職務執行者
梅沢設計 梅沢社長以下3名 計7名
住民 約90名

要旨

1. 事業者の説明

”H29.7.15付け伊豆高原メガソーラーパーク発電所説明会”資料に基づき
所司執行者が1～3項及び12項を説明
梅沢社長が4～11項を説明

2. 名鉄赤沢自主防災会役員会からの質問

”H29.7.15付け貴計画に対する質問事項”基づき向井が説明

3. 名鉄赤沢自主防災会会員及び別荘住民からの質問及び意見

- 1) 事業を計画するとき、立地の決定は最も重要な事項である 伊豆高原を選んだ理由は何か
不動産屋から八幡野、鎌田、函南を紹介された
その中で、日照時間が一番長いこと及び接続すべき高圧電線が近くを
通っていたので八幡野に決定した
- 2) 観光都市を選択したこと及び別荘地に隣接する場所を選択したのは市民
住民を無視した大きな間違いである
- 3) 我々住民はMSの建設によって、土砂災害、水源及び源泉問題等いろい
ろなリスクを負うことになる その上再生エネルギー発電賦課金の徴収及び
更なる増額を強いられることになる このような状況を容認してまで、貴社
の利益向上に貢献することはできない
- 4) 土砂災害は直接人命にかかわるだけに一番心配である 天城山系の
地盤は崩壊期に入っている 伊雄山の地盤はその影響を強く受けている
周辺でチョットした雨で土砂崩れが発生しているのはそのためである
そのような地盤にMSを作るのは人命を無視した行為であり、白紙撤回
以外はない
- 5) 伊豆半島は観光地域であるので発電工場を造ろうとする場合は、もう少し
研究して立地を決定すべきである また、事前に住民の意見を聞くべきで
あった 伊豆半島の真ん中にMS発電所を造る計画には無理がある
白紙撤回は譲れない
- 6) 立地の選択が間違っている 名鉄赤沢別荘地に住むことを決めた最大の
理由は源泉の水質分析表である 大規模開発によってこの分析値に
チョットでも変化したら住んでいる意味がない 白紙撤回！よろしく
- 7) 残置森林幅30mの根拠 特にMSによる電磁波、反射太陽光等の人体に
及ぼす影響の観点からみた根拠 人体に全く影響がないのが30mか？
- 8) 名鉄赤沢別荘地住民を対象とした説明会であれば、説明資料も住民に
必要な情報が記載されているべきである 特に隣接する住民に対して
必要な事項(コンディショナーの設置位置等)が織り込まれたもので
なければならない
- 9) 海を支えているのは森林の保水力とその中に溶け込んでいる栄養素を
海に注いでくれるからです 太陽光発電の良さは理解しますが、広大な

森林を丸裸にして、果たして自然に優しいといえるでしょうか また本当に正しいことでしょうか 現在の素晴らしい環境に誇りを持っています 子供たちにもこの素晴らしい財産を破壊することなく残せるようにして下さい

10)長い目でみてMS計画の事業性はあるのか

11)大室山から見えなければ良しとするのか 伊雄山からはどう見えるのか

12)ハンファの企業イメージが下がるよ

4. 即答内容

A-1項 敷地面積は水平投影面積

A-2項 敷地面積の内側30mも水平投影距離

A-3項 出資比率はハンファ:シリコン=75:25 建設費用は全額ハンファ

D-4項 環境アセスメントは実施していないが、雑草等を評価対象としない
自然環境評価は実施した(代わりにこの提出を受けることにした)

F-1項 韓国の財閥である親会社が補償するので問題ない

F-2項 例えば、草取り人役は約20名x2,3ヶ月

F-3項 行政で審査が完了していない書類以外に必要な資料は提出する
ボーリング調査結果についても要望があり提供が確認された

5. 事業者の発言

1) 3.11対策である日本の国策に基づくMS電力の安定供給は環境に優しい
ビジネスと考えている(朴氏)

2) 日本中にハンファエナジーの発電所が13ヶ所ありその内7ヶ所は建設中
である(朴氏)

3) 昨年9月から設計を開始し完了まで6ヶ月かかった(朴氏)

4) 書面で回答するので時間を下さい(朴氏)

5) 敷地境界線からの距離30mはガイドラインに基づく決定である(梅沢設計)

6) ソーラーパネルの販売量は上位3社が日本企業、ハンファは4位
ハンファの発電量12~14位(朴氏)

7) 企業イメージが下がってハンファの製品を買わなくなるよという意見に
対して、ハンファのコア事業は石化と太陽光であり最終製品は製造して
いないと回答(朴氏)

8) 地質調査によれば、表層土はmin5m~nor10mあり、岩盤を工事すること
はない 従って水脈に影響はない(所司氏) 以上

伊藤市役所 建設部
都市計画課長補佐
岩崎 光博 殿

平成29年7月19日
名鉄赤沢自主防災会
会長 白石 善久

MS事業者の中間報告に対する弊見解

平成29年7月12日 伊豆メガソーラーパーク合同会社 朴聖龍 代表社員が貴職へ提出いたしました回答書

”「伊豆高原太陽光発電所」計画に関するご懸念事項についての回答”の一部に、納得し難い説明がありましたので下記、下記の弊見解を申し述べます

記

1. 7項 近隣別荘地の水源への影響について、事業地と水源エリアは区域が違うから影響がないと簡単に片づけておりますが、水源に至るまでの水脈の経路及び事業地の降雨の浸透経路が全く交わることがないと検証されているのでしょうか
2. 鹿も猪も事業区域よりも高い山に生息しており、本事業による影響はないと結論付けています これは伊雄山より高い山に生息しており、伊雄山には生息していないと読み取れます これは事実と反します
仮に高い所と記すべきところを高い山と記したとしても、伊雄山の低い所でも高い所でも全体で見かけております 調査の信頼性が疑われます

以上